

令和 7 年度社会教育委員等研修会 参加報告

新潟市社会教育委員（ 白神道子 ）

- 1 期 日 令和 7 年 6 月 30 日（月）
- 2 会 場 黒埼市民会館
- 3 対 象 県及び市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育行政関係者
- 4 主 催 新潟県社会教育委員連絡協議会（共催：新潟市）
- 5 研修内容 第 1 部「新潟県における社会教育委員の現状」について
第 2 部「社会教育委員の取組」について

6 研修内容概要

冒頭、山田会長より、「学びを自信に」「協力を喜びに」「違いを豊かさに」というご自身の教師時代の学級経営のモットーを、社会教育員会でも生かして行きたいという話があった。

第 1 部**県における社会教育委員の現状についての話。**

社会教育員会（現在 347 名）は、市や街からの委嘱を受け、それぞれの地域で各々の専門分野で活動しているが、それらの相互の連絡連携を図り市町村の社会教育の充実を推進するのが県社連（県社会教育連絡委員会）の役割である。

県社連の組織と体制について

今年度より新体制になったことの説明

今迄の上、中、下越という分類を、小さなブロックのほうが、動きやすいのではないかという見解により 8 つのブロックに分けた。研究大会や分科会を 8 ブロック輪番制に変えた。

第 2 部**グループワーク**

社会教育委員、行政担当者として、やりたいことや課題と思われることを出し合いまとめていく作業をおこなった。

＊行動する社会教育委員を目指しているが、実際何をしたらいいのかがつかめない。（公募委員）

＊継続可能な取り組みを考えられているか？

＊教育委員やそのほかの委員との連携がとれていない。

＊既存施設や公民館の活性化をめざしたいがどう働きかけたらいいのかわからない。

7 感 想

第 1 部については、県からの組織の説明などが大半を占めていて、情報としては、初めて聞くこともあったが、社会教育委員としての立ち位置がはっきりするには至らなかった。単なる、組織、体制の説明としてしか受け取れなかった。

第 2 部のグループワークでは、5 人の編成だったが、やはりいつものように、一体何をするところなのか、どう行動したらいいのか、自分の考えをどう具体化していけばいいのか模索している方が多いように感じられた。